



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047(752)0453 植田 進 ☎047(487)9754
伊原 忠 ☎047(488)7207

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>

共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第287号

2016年10月3日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

“カローシライン”で働く日本の教職員

過労死は「カローシ」と言われて世界共通語になるほど、日本の労働者のすさまじい実態を物語っています。

OECD(経済協力開発機構)の調査では、加盟国教職員の1週間平均勤務時間が38.3時間に対して、日本の教職員は53.9時間と世界最長です(2013年)。週40時間労働ですから週の超過勤務時間は13.9時間、月に換算すると55.6時間です。厚生労働省は超過勤務時間が45時間を超えると脳・心臓疾患と業務の関連性が強まるとして、45時間以下を指導しています。

とくに日本は、部活など課外活動指導や事務作業時間など、授業以外に費やす時間がとびぬけて高くなっています。

八千代市教職員の最長超過勤務は月170時間

9月議会で八千代市の小中学校の教職員の勤務実態と多忙化解消について改善を求めました。八千代市の教職員の最長超過勤務時間は、1カ月で170時間でした。次が149時間、142時間と異常な長時間労働の実態が明らかになりました。この長時間労働は「産業医」と面談をして健康管理の指導を受けなければならないほどの勤務です。厚生労働省は過労死ラインの目安として超過勤務時間を月80時間としています。下表に示す通り八千代市の多くの教職員がこれを上回っています。

八千代市教職員の1カ月80時間以上超過勤務者数と割合

年度 \ 月	6月	10月	11月
2013年度	229人(26%)	171人(19%)	133人(15%)
2014年度	195人(22%)	174人(20%)	94人(11%)
2015年度	209人(24%)	164人(18%)	126人(14%)

教職員の増員、多忙化解消し教育の専門家に

教職員の異常な長時間労働は、いのちと健康にかかわる大きな問題です。同時にこうした長時間労働では、いじめ、不登校、虐待、貧困、学力格差などの問題に積極的に取り組めません。

こうした問題を解決するために、一クラスの児童・生徒数を減らし、教職員を増員することが必要です。また、教員に対して行政が作り出した不要不急の事務作業を整理するなどして多忙化を解消し、教員が教育の専門家として働ける環境をつくることが重要です。

